

年 組 名前：

問1

やまなしけんりつびじゅつかんかいかん しゅうねん みす
山梨県立美術館開館50周年を見据えて

さくてい いっかん のうぜい
策定したビジョンの一環で、ふるさと納税を

かつよう
活用します。

へんれいひん こた
その返礼品を教えてください。

.....
.....

問2

のうぜい きふきんがく こた
ふるさと納税の寄付金額を教えてください。

ください。

.....

問3

のうぜい え しゅうにゅう いちぶ
ふるさと納税で得た収入の一部は、

もくてき ひよう あ
どのような目的の費用に充てられますか。

.....
.....

問4

「NFT」について調べ、説明してください。

.....
.....

県立美術館開館50周年ビジョン

納税返礼品第1号に 現代美術作家の作品

県は19日、2028年の県立美術館開館50周年を見据えて策定したビジョンで示したふるさと納税を活用した振興策について、返礼品の第1号に市川三郷町出身の現代美術作家たかくらかずきさんのデジタルアートと絵画のセットが決まった、と発表した。

県などによると、たかくらさんは県立美術館の展示企画に参加した経験がある。イラスト制作のほか、映像制作や舞台美術などさまざまなジャンルで活躍している。

10月13日から受け付けを始め、寄付金額は8万円。返礼品は絵画と「NFT」と呼ばれる技術を使ったデジタルアートのセットで、道祖神をテーマにした作品になる予定。県内居住者は返礼品を受け取ることができない。

収入の一部は、高い表現力やデジタル技術を有する芸術家の育成を目的にした「やまなしメディア芸術アワード」の開催費用などに充てられる。長崎幸太郎知事は19日の定例会見で「これからの美術館は文化的価値を基盤とし、経済的価値を生み出すけん引役となるべく進化を遂げていく」と述べた。

ビジョンは6月に策定。新たな価値創造の一環として、県の事業に携わった現代美術作家が手がけるコンテンツをふるさと納税の返礼品とし、その寄付を文化芸術振興や芸術家への支援、育成に活用するとしていた。

〈小池直輝〉

(2023年9月20日付 山梨日日新聞23面)